

静岡県月例経済報告

(平成27年6月号)

……平成27年4月を中心とした県内経済のすがた……

No. 470

—静岡県経済産業部—

目 次

I	静岡県経済の概況	1
II	静岡県主要経済指標の概況	4
	・ 需要面	4
	・ 生産面	12
	・ 雇用面	15
	・ その他	18
III	静岡県主要産業の動向	22
IV	データからみた県内主要産業	25

利用にあたって

- 1 本月報は、本県経済の状況について、経済統計及び産業動向をとりまとめたものである。
- 2 本月報は4部から構成されている。
- 3 第1部では、本県経済の概況について経済統計データを中心に述べているが、指標によっては当該月データが未公表のため前月値を用いる場合がある。これらの指標は文中に示している。
- 4 第2部では、本県経済の動向について主要経済指標を用いて、データとグラフで示している。
- 5 第3部では、本県の主要産業動向について簡単にまとめている。
- 6 第4部では、本県の主要産業動向についてデータで示している。
- 7 本月報で用いた ▲はマイナスを表している。
- 8 数字の単位未満は四捨五入することを基本としているが、情報提供元の公表方法に準拠させている。

この「静岡県月例経済報告」は、静岡県経済産業部のインターネット・ホームページに掲載しています。

ホームページアドレス(URL) <http://www.pref.shizuoka.jp/sangyou/>

I 静岡県経済の概況

〔 本稿は、平成27年4月を中心とした経済統計及び企業ヒアリングをもとに取りまとめている。 〕

概況

平成27年4月を中心とした静岡県の景気は、緩やかに回復しつつあるが、弱めの動きもみられる。

先行きについては、堅調な設備投資などを背景に、景気回復の動きが確かなものとなることが期待されるものの、個人消費での弱めの動きと海外経済の動向に注意する必要がある。

雇用情勢は、改善の動きを続けている。

- ・ 個人消費は、やや弱めの動きとなっている。
- ・ 設備投資は、持ち直している。
- ・ 輸出は、持ち直しつつある。
- ・ 生産は、持ち直しの動きがみられる。

需要面

◎個人消費は、やや弱めの動きとなっている。

大型小売店販売額(4月)は、百貨店、スーパーがいずれも7か月ぶりに前年実績を上回ったことから、総額でも7か月ぶりに前年実績を上回った。

自動車(新車)新規登録台数(4月)は、乗用車が9か月連続、軽自動車が4か月連続で前年実績を下回ったことから、総数でも13か月連続で前年実績を下回った。

◎住宅建設は、前年を下回った。

新設住宅着工戸数(4月)は、持家が2か月ぶり、貸家が7か月連続、分譲住宅が2か月連続で前年実績を下回ったことから、全体でも13か月連続で前年実績を下回った。

◎公共投資は、前年を下回った。

公共工事請負金額(4月)は、4か月連続で前年実績を下回った。

◎設備投資は、持ち直している。

日銀短観(平成27年4月1日)の27年度設備投資計画は、製造業で増加、非製造業で減少する計画となっており、全産業では増加する計画となっている。

着工建築物床面積(非居住用)(4月)は、5か月連続で前年実績を下回った。

◎輸出は、持ち直しつつある。

輸入は、前年を上回った。

輸出総額(4月)は、科学光学機器が2か月連続、自動車が3か月ぶり、二輪自動車類が10か月連続で前年実績を上回ったものの、原動機が2か月ぶり、エアコンが6か月連続、自動車の部分品が3か月連続で前年実績を下回ったことから、全体でも2か月ぶりに前年実績を下回った。

また、輸入総額(4月)は、自動車の部分品や魚介類が前年実績を上回ったことから、全体でも5か月連続で前年実績を上回った。

なお、輸出入のバランスは、825億円の輸出超過となった。

生産面

◎生産は、持ち直しの動きがみられる。

鉱工業生産指数(3月)は、電気機械工業や食料品・たばこ工業などで前年水準を下回ったことから、総合でも9か月連続で前年水準を下回った。また、4か月連続で前月を上回った。

また、産業用大口電力消費量(4月)は、9か月連続で前年実績を下回った。

なお、鉱工業在庫指数(3月)は、総合では4か月ぶりに前年水準を上回った。

雇用面

◎雇用情勢は、改善の動きを続けている。

有効求人倍率(4月)は1.13倍で、前月を0.01ポイント上回り、15か月連続で1倍を上回った。また、4か月連続で全国値を下回った。

雇用保険受給者実人員(4月)は、21か月連続で前年実績を下回った。

また、所定外労働時間指数(3月)は、4か月ぶりに前年水準を下回った。

その他

◎物価は、前年を上回った。

消費者物価指数(5月)は、総合で104.0となり、前年水準を上回った。

また、前月比は0.3%上昇した。

◎金融環境は、貸出残高は前年を上回り、信用保証金額は前年を下回った。

県内金融機関の貸出残高(4月)は、前年同月比2.8%増と前年実績を上回った。

信用保証協会保証金額(4月)は、前年同月比1.3%減と前年実績を下回った。

◎企業倒産は、件数は前年を上回り、負債総額は前年を下回った。

企業倒産(5月)は、件数は21件と前年実績を上回り、負債総額は前年同月比6.7%減と前年実績を下回った。

《 県の取組 》

【 「ふじのくにCNFフォーラム」キックオフセミナーを開催！ 】

静岡県は、本県ならではの新たな産業の創出につなげるため、全国に先駆けて、産学官が連携してCNFの研究、製品化等を検討する「ふじのくにCNFフォーラム」を設立し、キックオフセミナーを開催しました。

●日 時 平成27年6月22日（月）14時30分～18時30分

●会 場 富士市交流プラザ 2階多目的ホール（富士市富士町20-1）

- 内 容
- (1) 主催者あいさつ 静岡県副知事 高 秀樹
 富士市長 小長井 義正
 - (2) 来賓あいさつ 経済産業大臣政務官 岩井 茂樹
 - (3) 「ふじのくにCNFフォーラム設立宣言」
 静岡県経済産業部長 篠原 清志
 - (4) 基調講演「CNFが拓く静岡の未来産業」
 東京大学大学院教授 磯貝 明
 - (5) 国からの報告
 経済産業省紙業服飾品課長 渡邊 政嘉
 - (6) 企業の取組発表
 素材開発企業 王子ホールディングス（株）
 県内企業 トクラス（株）、相川鉄工（株）
 - (7) 交流会、参加者による情報交換

（ふじのくにCNFフォーラムのメンバー）

- 会長 川勝 平太 静岡県知事
- 顧問 東京大学大学院教授 磯貝 明
 京都大学教授 矢野 浩之
 静岡大学副学長 鈴木 滋彦
- 会員 学術機関、企業、経済団体・行政機関

（参考）セルロースナノファイバー（CNF）

セルロースナノファイバー（CNF）は、木材などの植物繊維を微細化した新素材で、軽量かつ高い強度を有する等の特性から、次世代の新素材として期待されており、国においても実用化、普及に向けた取組が進められています。

II 静岡県主要経済指標の概況

需 要 面

1 個人消費

(1) 大型小売店販売額

4 月 = 34,501百万円

*前年同月比： 6.3%増

(県内3百貨店、145スーパー合計)

<概況>

4月の大型小売店販売額は34,501百万円で、前年同月比6.3%増となり、7か月ぶりに前年実績を上回った。

業態別にみると、百貨店(前年同月比16.1%増)、スーパー(同4.2%増)がいずれも7か月ぶりに前年実績を上回った。

商品別では、衣料品(同8.6%増)、身の回り品(同8.7%増)がいずれも7か月ぶり、飲食料品(同4.4%増)が2か月ぶり、家庭用品(同11.5%増)が13か月ぶりに前年実績を上回った。

なお、店舗数調整前の前年同月は5.6%増となり、6か月ぶりに前年実績を上回った。

<最近の動き>

	26年9月	10月	11月	12月	27年1月	2月	3月	4月
販売額(百万円)	33,764	34,918	36,376	45,063	37,943	32,103	35,890	34,501
前年同月比(%)	0.8	▲0.8	▲0.9	▲1.0	▲0.6	▲0.7	▲13.9	6.3
うち百貨店(%)	3.4	▲3.7	▲1.9	▲1.3	▲2.5	▲3.7	▲24.4	16.1
スーパー(%)	0.2	▲0.1	▲0.6	▲0.9	▲0.1	0.0	▲10.5	4.2
(参考1)全国前年同月比(%)	0.5	0.0	1.2	0.1	0.0	1.3	▲13.0	8.6
うち百貨店(%)	1.7	0.2	1.5	0.6	▲0.4	3.5	▲17.7	13.7
スーパー(%)	▲0.1	▲0.1	1.0	▲0.2	0.3	0.2	▲10.1	6.3
(参考2)県前年同月比(店舗数調整前)	2.1	0.0	▲0.2	▲0.6	▲0.8	▲1.4	▲13.6	5.6

(注)販売額は店舗数未調整、前年同月比は店舗数調整済、全月速報値

<資料>経済産業省

<商品別前年同月比の推移>

(単位：%)

	26年9月	10月	11月	12月	27年1月	2月	3月	4月
衣料品	3.6	▲3.1	▲7.0	▲4.9	▲6.6	▲3.4	▲17.8	8.6
うち紳士服・洋品	5.6	0.6	▲7.1	▲5.1	▲7.5	▲1.3	▲12.8	6.4
うち婦人・子供服・洋品	3.0	▲4.8	▲6.4	▲5.4	▲6.3	▲3.4	▲18.5	9.2
身の回り品	4.8	▲7.9	▲3.3	▲4.1	▲3.5	▲11.6	▲24.0	8.7
飲食料品	0.9	0.9	1.5	0.1	1.9	1.0	▲4.3	4.4
家庭用品	▲9.1	▲8.2	▲9.6	▲8.1	▲8.4	▲9.3	▲27.9	11.5
うち家庭用電気機械器具	▲17.8	▲12.7	▲15.6	▲13.1	▲14.8	▲18.9	▲24.7	28.3

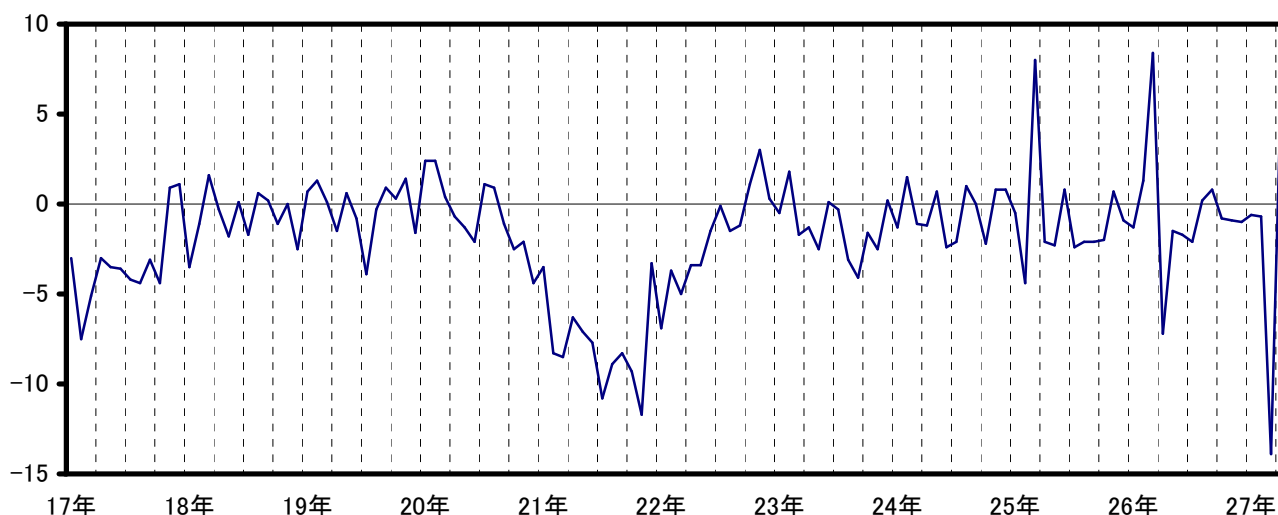
(注)店舗数調整済、全月速報値

<資料>経済産業省

<過去10年間の推移>

大型小売店販売額前年同月比(%)

<資料>経済産業省



(2) 百貨店販売額

4月 = 5,876百万円

*前年同月比： 14.7%増

(県内3百貨店販売額)

<概況>

4月の県内3百貨店の販売額は5,876百万円で、7か月ぶりに前年実績を上回った。
 品目別にみると、衣料品(前年同月比11.7%増)、身の回り品(同7.6%増)がいずれも7か月ぶり、家庭用品(同47.5%増)が8か月ぶり、食料品(同3.4%増)、雑貨(同47.9%増)がいずれも3か月ぶりに前年実績を上回った。

<最近の動き>

	26年9月	10月	11月	12月	27年1月	2月	3月	4月
販売額(百万円)	5,700	5,986	6,921	9,275	7,119	5,500	7,011	5,876
前年同月比(%)	1.8	▲5.2	▲3.4	▲2.9	▲3.9	▲5.2	▲25.6	14.7
(参考)全国前年同月比(%)	▲0.7	▲2.2	▲1.0	▲1.7	▲2.8	1.1	▲19.7	13.7

(注)販売額は店舗数未調整、前年同月比は店舗数調整済

<資料>県百貨店協会、日本百貨店協会

<品目別前年同月比の推移>

(単位：%)

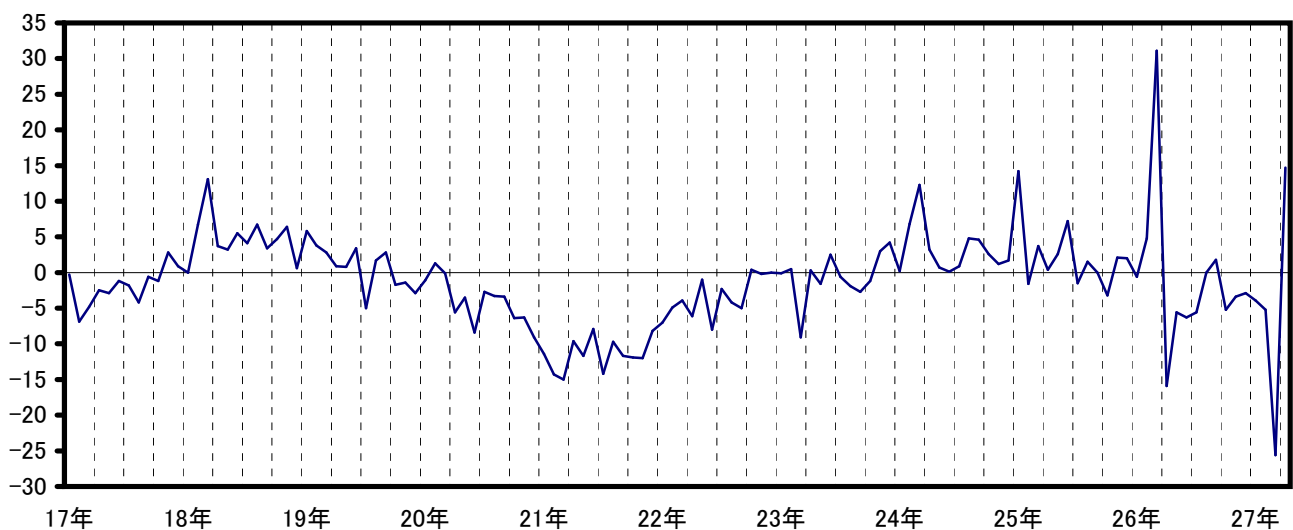
	26年9月	10月	11月	12月	27年1月	2月	3月	4月
衣料品	3.1	▲5.7	▲4.8	▲6.5	▲7.6	▲7.2	▲23.2	11.7
うち紳士服・洋品	3.0	▲0.7	▲2.0	▲3.7	▲6.4	▲1.6	▲14.5	9.4
婦人服・洋品	4.0	▲7.2	▲5.4	▲7.1	▲7.6	▲8.7	▲25.7	10.4
子供服・洋品	▲5.5	▲10.1	▲4.0	▲12.1	▲6.9	0.2	▲17.6	21.6
身の回り品	6.1	▲9.5	▲5.3	▲7.5	▲6.1	▲18.2	▲30.7	7.6
家庭用品	▲9.3	▲11.8	▲5.7	▲6.2	▲7.7	▲5.8	▲35.7	47.5
食料品	▲3.1	▲0.6	▲2.3	▲2.8	1.1	▲1.1	▲6.8	3.4
雑貨	4.3	▲6.0	1.1	9.6	4.5	▲1.8	▲44.1	47.9
うち美術・宝飾・貴金属	▲1.9	▲12.5	▲5.3	21.0	13.2	▲6.9	▲56.6	71.2

(注)店舗数調整済

<過去10年間の推移>

県内百貨店販売額前年同月比(%)

<資料>県百貨店協会



(3) 自動車(新車)新規登録台数

4月 = 10,372台

*前年同月比：14.2%減

(乗用車、軽自動車合計)

<概況>

4月の自動車(新車)新規登録台数は10,372台(前年同月比14.2%減)となり、13か月連続で前年実績を下回った。
 車種別にみると、乗用車(同0.4%減)が9か月連続、軽自動車(同25.4%減)が4か月連続で前年実績を下回った。

<最近の動き>

	26年9月	10月	11月	12月	27年1月	2月	3月	4月
登録台数(台)	16,904	13,228	14,149	14,156	14,885	18,188	24,066	10,372
前年同月比(%)	▲12.2	▲8.3	▲8.0	▲5.4	▲21.3	▲16.0	▲9.3	▲14.2
(参考)全国前年同月比(%)	▲3.2	▲7.4	▲10.2	0.3	▲20.7	▲17.8	▲11.9	▲10.1

<資料>県税務課、日本自動車販売協会連合会

<車種別(新車)新規登録台数前年同月比の推移>

(単位：%)

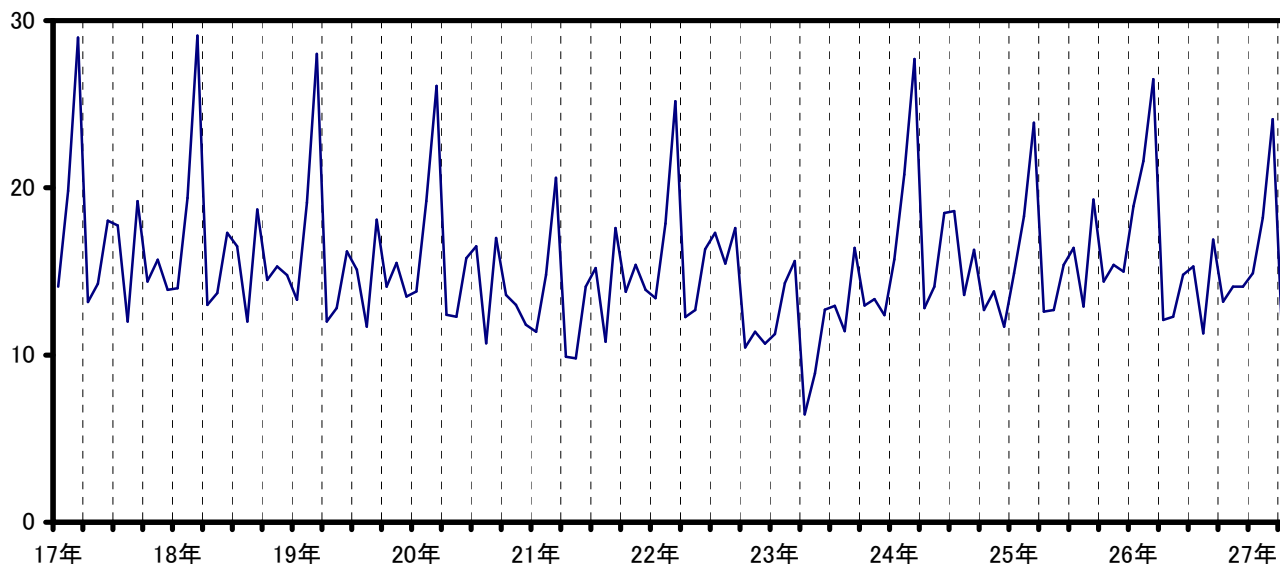
	26年9月	10月	11月	12月	27年1月	2月	3月	4月
全乗用車	▲12.2	▲8.3	▲8.0	▲5.4	▲21.3	▲16.0	▲9.3	▲14.2
乗用車	▲12.5	▲11.4	▲16.7	▲13.8	▲26.0	▲18.3	▲15.2	▲0.4
軽自動車	▲11.8	▲4.4	2.7	4.7	▲16.1	▲13.4	▲2.2	▲25.4

<資料>県税務課

<過去10年間の推移>

自動車(新車)新規登録台数(千台)

<資料>県税務課



(注)全国前年同月比は乗用車+軽乗用車

2 新設住宅着工戸数

4 月 = 1,805戸

*前年同月比： 20.2%減

<概況>

4月の新設住宅着工戸数は1,805戸で、前年同月比 20.2%減となり、13か月連続で前年実績を下回った。

利用関係別にみると、持家（前年同月比 10.8%減）が2か月ぶり、貸家（同 17.4%減）が7か月連続、分譲住宅（同 48.5%減）が2か月連続で前年実績を下回った。

<最近の動き>

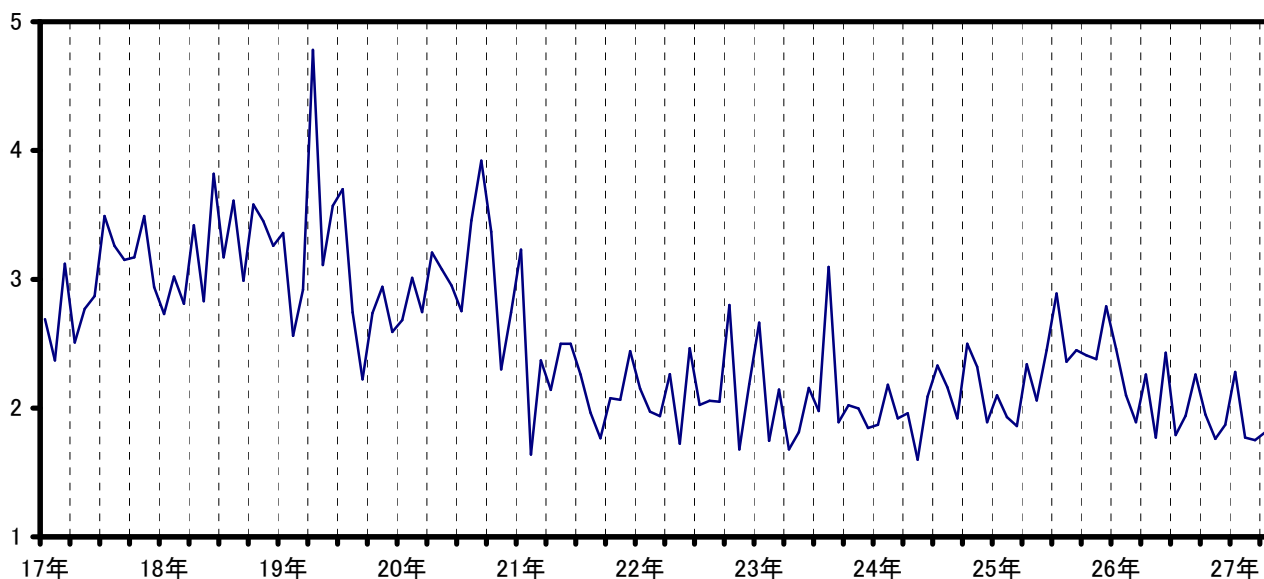
	26年9月	10月	11月	12月	27年1月	2月	3月	4月
戸数（戸）	2,261	1,953	1,756	1,871	2,278	1,771	1,751	1,805
前年同月比（%）	▲ 7.5	▲ 18.9	▲ 26.2	▲ 33.0	▲ 7.2	▲ 16.0	▲ 7.4	▲ 20.2
うち持家（%）	▲ 23.2	▲ 22.7	▲ 22.8	▲ 39.7	▲ 26.2	▲ 11.7	6.4	▲ 10.8
貸家（%）	3.2	▲ 22.8	▲ 24.3	▲ 24.0	▲ 22.7	▲ 40.6	▲ 20.4	▲ 17.4
分譲住宅（%）	46.3	15.0	▲ 38.7	▲ 26.4	161.9	96.0	▲ 20.7	▲ 48.5
(参考)全国前年同月比（%）	▲ 14.3	▲ 12.3	▲ 14.3	▲ 14.7	▲ 13.0	▲ 3.1	0.7	0.4

<資料>県住まいづくり課

<過去10年間の推移>

新設住宅着工戸数(千戸)

<資料>県住まいづくり課



3 公共工事請負金額

4 月 = 39,163百万円

*前年同月比： 1.1%減

(建設保証会社保証実績)

<概況>

4月の公共工事の請負金額(工事場所ベース)は39,163百万円で、前年同月比1.1%減となり、4か月連続で前年実績を下回った。また、取扱い件数(工事場所ベース)は461件で、前年同月比10.0%増となり、2か月ぶりに前年実績を上回った。

<最近の動き>

	26年9月	10月	11月	12月	27年1月	2月	3月	4月
金額(百万円)	41,715	21,030	14,446	15,445	9,478	8,099	15,112	39,163
前年同月比(%)	12.8	▲22.1	▲15.2	1.5	▲0.9	▲25.0	▲9.9	▲1.1
年度累計前年同月比(%)	3.1	0.0	▲1.1	▲0.9	▲0.9	▲1.9	▲2.3	▲1.1
件数(件)	1,314	854	685	749	462	288	183	461
前年同月比(%)	15.7	▲13.3	▲19.1	▲7.9	▲12.0	25.8	▲16.8	10.0
年度累計前年同月比(%)	▲0.1	▲2.5	▲4.7	▲5.0	▲5.5	▲4.6	▲4.9	10.0

<資料>東日本建設業保証(株)静岡支店

<発注者別請負金額前年同月比の推移>

(単位:%)

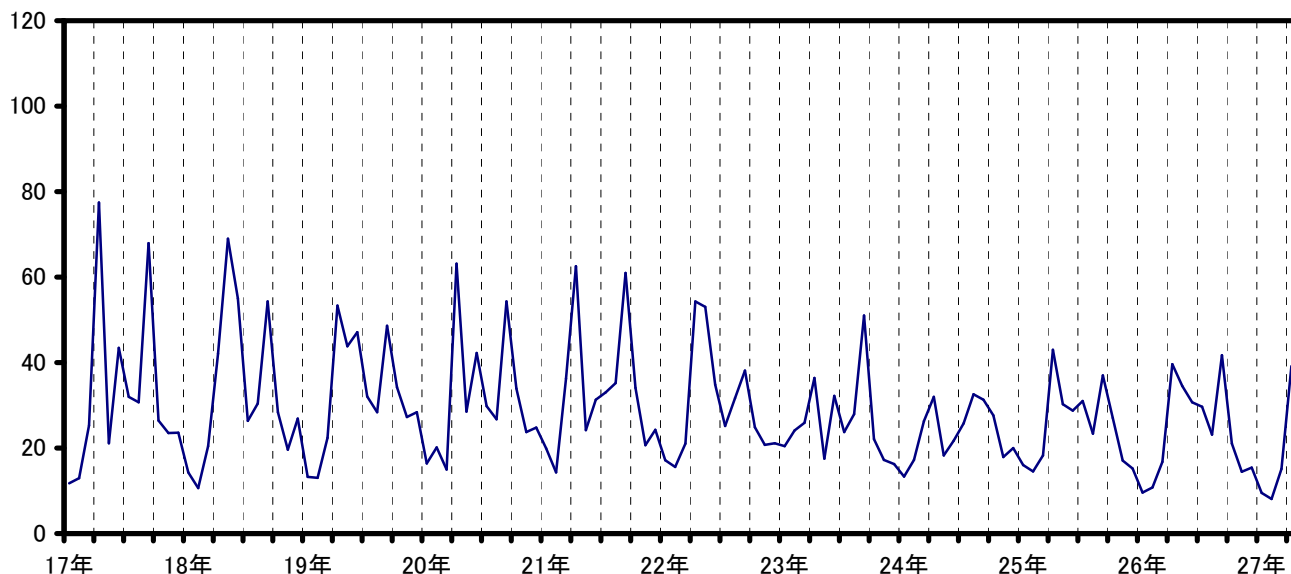
	26年9月	10月	11月	12月	27年1月	2月	3月	4月
国	▲16.5	▲24.2	206.1	343.1	▲2.4	▲57.4	▲2.9	▲23.5
独立行政法人等	▲50.7	▲92.2	▲4.4	▲78.4	1,452.9	65.6	▲62.8	37.9
県	37.1	▲24.3	▲31.0	▲18.1	▲36.3	3.1	9.4	▲15.7
市町	17.2	▲9.3	▲27.7	▲13.6	5.0	▲3.9	▲35.6	▲3.0
地方公社	▲76.1	67.1	-	▲25.5	▲44.2	-	-	-
その他	▲1.9	▲18.2	59.8	1,168.2	▲10.0	▲69.7	298.7	83.9

<資料>東日本建設業保証(株)静岡支店

<過去10年間の推移>

公共工事請負金額(十億円)

<資料>東日本建設業保証(株)静岡支店



4 設備投資

<概況>

平成26年度の設備投資（計画）は、製造業（前年度比 29.6%増）、非製造業（同 5.4%増）ともに増加する計画となっており、全産業（同 16.6%増）でも増加する計画となっている。
 平成27年度の設備投資（計画）は、製造業（前年度比 2.4%増）で増加、非製造業（同 0.6%減）で減少する計画となっており、全産業（同 0.9%増）で増加する計画となっている。
 4月の着工建築物床面積（非居住用）は105,169㎡で、前年同月比 24.6%減となり、5か月連続で前年実績を下回った。

<企業短期経済観測調査結果>

（前年度比%）

		26年度 (計画)	前回調査 比修正率	上期	前回調査 比修正率	下期 (計画)	前回調査 比修正率	27年度 (計画)	
全 産 業	県	16.6	0.5	11.2	0.6	20.6	0.5	0.9	
	全国	4.4	0.7	1.9	—	6.4	1.3	▲ 5.0	
	製 造 業	県	29.6	▲ 1.8	16.9	0.2	38.1	▲ 3.0	2.4
		全国	7.1	▲ 3.4	5.5	—	8.3	▲ 4.9	1.3
	非 製 造 業	県	5.4	3.2	6.7	0.9	4.5	5.1	▲ 0.6
		全国	3.1	2.9	0.1	—	5.5	4.6	▲ 8.0

<資料>日本銀行静岡支店「静岡県の企業短期経済観測調査結果（平成27年3月調査）」

日本銀行調査統計局「全国企業短期経済観測調査」（平成27年3月調査）」

<最近の動き>

	26年9月	10月	11月	12月	27年1月	2月	3月	4月
着工建築物床面積（非居住用）（㎡）	189,786	173,946	156,017	104,484	71,788	83,413	61,410	105,169
前年同月比（%）	24.8	126.4	101.5	▲ 23.4	▲ 63.8	▲ 8.3	▲ 69.0	▲ 24.6
（参考）全国前年同月比（%）	▲ 20.4	13.3	▲ 10.9	▲ 17.3	▲ 16.4	9.4	▲ 18.9	2.2

（注）着工建築物床面積は公共と民間の合計のうち、非居住用

<資料>国土交通省

<参考 県内企業の業況判断D. I. >

		26年12月	27年3月	27年6月 (予測)
全 産 業		1	1	▲ 1
	製 造 業	9	4	2
	非 製 造 業	▲ 6	▲ 2	▲ 5
（参考） 全国 ・ 全産業		6	7	5

（注）業況判断D. I. : 「良い」-「悪い」回答社数構成比%ポイント

<資料> 日本銀行静岡支店「静岡県の企業短期経済観測調査結果（平成27年3月調査）」

5 輸出

4 月 = 172,309百万円

*前年同月比： 4.5%減

(清水税関支署管内通関実績)

<概況>

4月の清水税関支署管内の輸出総額は172,309百万円で、前年同月比 4.5%減となり、2か月ぶりに前年実績を下回った。

主要な品目別にみると、科学光学機器(前年同月比 32.3%増)が2か月連続、自動車(同 9.1%増)が3か月ぶり、二輪自動車類(同 2.3%増)が10か月連続で前年実績を上回ったものの、原動機(同 0.1%減)が2か月ぶり、エアコン(同 23.1%減)が6か月連続、自動車の部分品(同 15.3%減)が3か月連続で前年実績を下回った。

地域別にみると、アジア向け(同 1.5%増)が2か月連続で前年実績を上回ったものの、米国向け(同 4.8%減)が3か月連続、EU向け(同 16.2%減)が2か月ぶりに前年実績を下回った。

<最近の動き>

	26年9月	10月	11月	12月	27年1月	2月	3月	4月
輸出総額(百万円)	168,706	175,585	162,486	190,421	166,118	163,172	182,364	172,309
前年同月比(%)	5.3	5.3	▲0.6	7.7	11.1	▲3.6	0.6	▲4.5

<資料>清水税関支署

<主要品目別前年同月比の推移>

(単位:%)

	26年9月	10月	11月	12月	27年1月	2月	3月	4月
原動機	9.0	5.4	19.3	13.8	9.8	▲6.9	7.0	▲0.1
エアコン	▲12.3	39.3	▲14.9	▲19.7	▲3.5	▲19.0	▲22.2	▲23.1
自動車	▲14.6	29.0	26.9	11.5	9.1	▲13.2	▲0.6	9.1
自動車の部分品	12.4	7.3	▲13.5	▲0.8	2.7	▲4.3	▲0.3	▲15.3
二輪自動車類	28.6	11.3	26.9	10.8	14.1	5.3	9.4	2.3
科学光学機器	6.2	3.6	4.1	19.5	37.7	▲9.4	11.0	32.3

<資料>清水税関支署

<地域別前年同月比の推移>

(単位:%)

	26年9月	10月	11月	12月	27年1月	2月	3月	4月
アジア	6.3	0.9	▲4.3	4.6	16.6	▲4.3	1.6	1.5
米国	8.0	21.7	5.7	32.9	3.0	▲0.8	▲8.8	▲4.8
EU	▲4.9	▲13.5	▲6.9	▲17.6	12.4	▲6.2	7.6	▲16.2

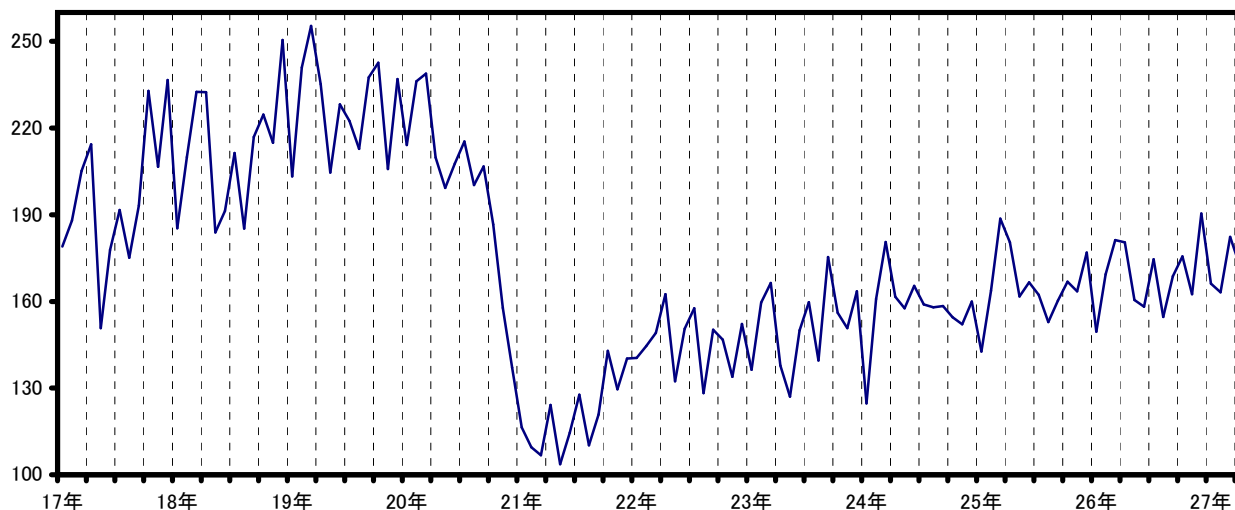
<資料>清水税関支署

(注)管内とは、清水港(焼津、沼津、浜松、興津の各出張所及び下田監視所含む)、田子の浦港、御前崎港、静岡空港の4つをいう。なお、数値は、通関手続きが行われた金額である。輸入も同様。

<過去10年間の推移>

清水税関支署管内通関実績輸出額(十億円)

<資料>清水税関支署



6 輸入

4 月 = 89,796百万円

*前年同月比： 1.2%増

(清水税関支署管内通関実績)

<概況>

4月の清水税関支署管内の輸入総額は89,796百万円で、前年同月比 1.2%増となり、5か月連続で前年実績を上回った。
 主要な品目別にみると、パルプ（前年同月比 4.4%減）が4か月ぶり、紙類及び同製品（同 10.1%減）が2か月連続、原動機（同 47.3%減）が13か月連続で前年実績を下回ったものの、魚介類（同 28.4%増）が2か月連続、木材（同 3.1%増）が2か月ぶり、自動車の部分品（同 83.3%増）が3か月連続で前年実績を上回った。
 地域別では、アジアから（同 3.2%増）が2か月ぶり、米国から（同 11.4%増）が3か月連続、EUから（同 6.9%増）が18か月連続で前年実績を上回った。

<最近の動き>

	26年9月	10月	11月	12月	27年1月	2月	3月	4月
輸入総額(百万円)	88,361	88,309	75,455	95,992	97,413	85,895	87,211	89,796
前年同月比(%)	21.9	7.5	▲ 1.5	20.1	14.4	9.0	0.9	1.2

<資料>清水税関支署

<主要品目別前年同月比の推移>

(単位:%)

	26年9月	10月	11月	12月	27年1月	2月	3月	4月
魚 介 類	38.9	4.6	2.9	9.3	31.3	▲ 11.1	3.6	28.4
木 材	1.3	23.2	▲ 13.2	▲ 2.3	▲ 5.4	11.5	▲ 20.4	3.1
パ ル プ	45.6	9.9	▲ 1.6	▲ 2.9	10.7	17.7	2.8	▲ 4.4
紙 類 及 び 同 製 品	33.9	15.6	▲ 11.0	▲ 21.0	▲ 17.6	14.2	▲ 18.6	▲ 10.1
原 動 機	▲ 73.9	▲ 67.7	▲ 67.2	▲ 48.4	▲ 54.4	▲ 37.9	▲ 59.6	▲ 47.3
自 動 車 の 部 分 品	▲ 6.3	▲ 12.1	▲ 18.4	▲ 3.1	▲ 10.9	19.0	23.5	83.3

<資料>清水税関支署

<地域別前年同月比の推移>

(単位:%)

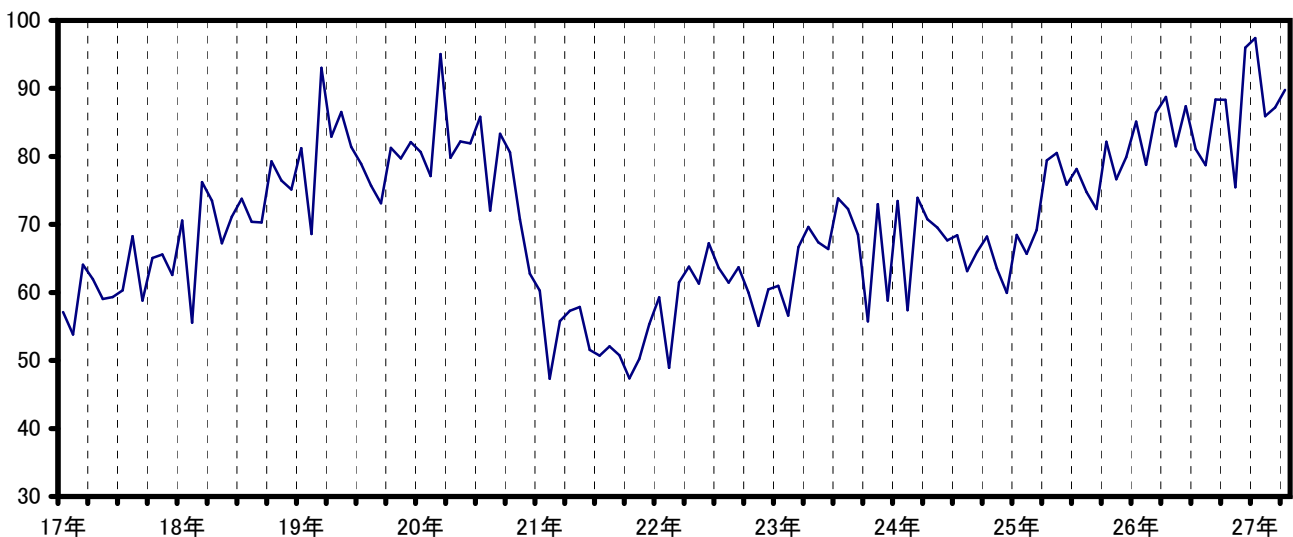
	26年9月	10月	11月	12月	27年1月	2月	3月	4月
ア ジ ア	18.4	▲ 2.8	▲ 0.4	16.3	▲ 0.2	23.5	▲ 18.7	3.2
米 国	32.7	▲ 6.4	▲ 30.7	31.2	▲ 17.1	11.1	6.8	11.4
E U	72.7	41.3	12.9	2.0	60.8	10.0	22.9	6.9

<資料>清水税関支署

<過去10年間の推移>

清水税関支署管内通関実績輸入額(十億円)

<資料>清水税関支署



生産面

1 生産

(1) 産業用大口電力消費量

4月 = 960,359千kWh

*前年同月比 2.8%減

(東京電力、中部電力合計)

<概況>

4月の産業用大口電力消費量は960,359千kWhで、前年同月比2.8%減となり、9か月連続で前年実績を下回った。

産業別にみると、電気機械（前年同月比3.1%増）が4か月ぶり、食品（同0.7%増）が3か月ぶりに前年実績を上回ったものの、一般機械（同4.7%減）が9か月連続、輸送機械（同1.9%減）が4か月連続、化学（同2.8%減）が2か月ぶり、パルプ・紙・紙加工品（同8.6%減）が6か月連続で前年実績を下回った。

<最近の動き>

	26年9月	10月	11月	12月	27年1月	2月	3月	4月
消費量(千kWh)	1,050,479	1,039,590	984,002	967,630	939,323	929,943	1,009,368	960,359
前年同月比(%)	▲2.2	▲2.3	▲2.3	▲1.4	▲3.3	▲3.4	▲1.7	▲2.8
全国10社前年同月比(%)	▲1.5	▲2.3	▲1.2	▲0.6	▲1.8	▲2.6	▲2.3	▲2.0

*産業用大口電力消費量=契約電力500kW以上

<資料>東京電力、中部電力、電気事業連合会

<県内産業別大口電力消費量前年同月比の推移>

(単位：%)

	26年9月	10月	11月	12月	27年1月	2月	3月	4月
一般機械工業	▲4.7	▲4.3	▲6.4	▲3.3	▲3.7	▲4.3	▲3.7	▲4.7
電気機械工業	▲1.0	▲1.0	▲0.7	1.0	▲0.3	▲0.9	▲1.1	3.1
輸送機械工業	▲3.5	▲4.9	▲4.7	0.0	▲2.5	▲1.9	▲0.1	▲1.9
化学工業	▲1.9	1.5	▲0.6	▲1.2	▲0.7	▲0.7	5.1	▲2.8
パルプ・紙・紙加工品工業	1.2	2.2	▲0.6	▲5.3	▲14.4	▲12.9	▲9.6	▲8.6
食品工業	▲4.0	▲4.7	▲1.3	0.4	0.3	▲2.5	▲1.8	0.7

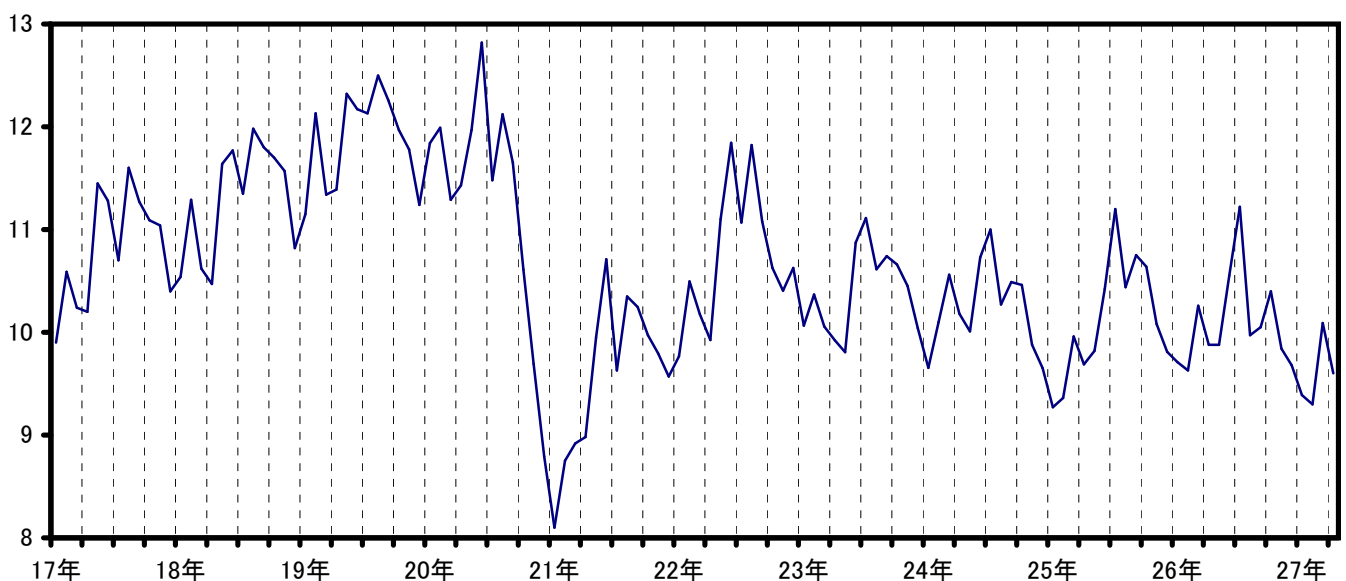
*産業用大口電力消費量=契約電力500kW以上

<資料>東京電力、中部電力

<過去10年間の推移>

産業用大口電力消費量(億kWh)

<資料>東京電力、中部電力



(2) 鋳工業生産指数

3月 = 98.4

(平成22年=100、鋳工業総合、季節調整済指数)

*前月比(季節調整済指数) : 0.1%増

*前年同月比(原指数) : 1.9%減

<概況>

3月の鋳工業生産指数(総合)は98.4(季節調整済指数)で、前月比0.1%増となり、4か月連続で前月を上回った。また、前年同月比(原指数)は1.9%減と9か月連続で前年水準を下回った。

業種別にみると、はん用・生産用・業務用機械(前年同月比2.1%増)が4か月連続、化学(同6.2%増)が2か月連続で前年水準を上回ったものの、電気機械(同10.8%減)が6か月連続、輸送機械(同2.5%減)が2か月ぶり、パルプ・紙・紙加工品(同2.0%減)が8か月連続、食料品・たばこ(同5.4%減)が10か月連続で前年水準を下回った。

<最近の動き>

	26年8月	9月	10月	11月	12月	27年1月	2月	3月
指数	90.5	91.4	93.2	90.5	93.2	97.4	98.3	98.4
前月比(%)	▲4.0	1.0	2.0	▲2.9	3.0	4.5	0.9	0.1
前年同月比(%)	▲4.3	▲0.4	▲4.5	▲6.8	▲2.8	▲7.6	▲1.9	▲1.9
(参考)全国前年同月比(%)	▲2.9	0.6	▲1.0	▲3.8	0.3	▲2.6	▲2.6	▲1.2

(注)平成22年=100、鋳工業総合、指数:季節調整済、前年同月比:原指数

<資料>県統計調査課、経済産業省

<県内業種別鋳工業生産指数前年同月比の推移>

(単位:%)

	26年8月	9月	10月	11月	12月	27年1月	2月	3月
はん用・生産用・業務用機械工業	▲4.7	36.6	13.5	▲7.3	10.9	2.5	16.8	2.1
電気機械工業	▲11.0	1.3	▲0.4	▲9.7	▲3.7	▲10.4	▲16.7	▲10.8
輸送機械工業	▲2.0	▲6.0	▲4.3	▲7.7	▲4.0	▲9.0	0.7	▲2.5
化学工業	▲5.2	▲5.8	▲19.6	▲1.3	8.4	▲10.7	2.8	6.2
パルプ・紙・紙加工品工業	▲9.2	▲0.2	▲2.4	▲2.7	▲4.9	▲6.0	▲3.7	▲2.0
食料品・たばこ工業	▲6.3	▲8.8	▲7.7	▲9.5	▲13.1	▲8.7	▲7.9	▲5.4

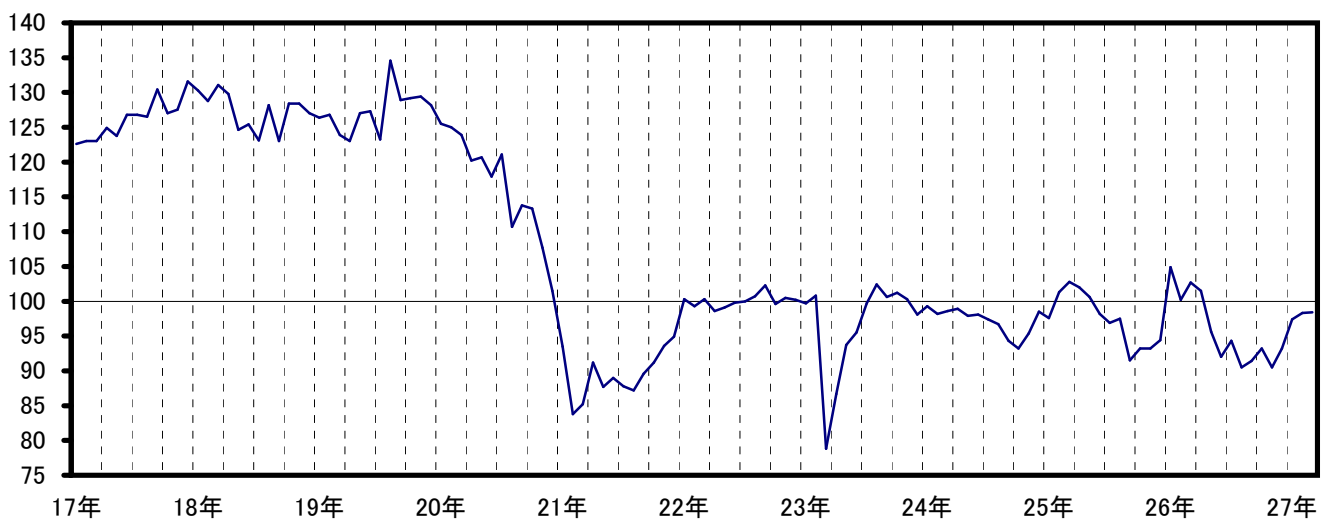
(注)平成22年=100、鋳工業総合、前年同月比:原指数

<資料>県統計調査課

<過去10年間の推移>

鋳工業生産指数(総合、平成22年=100)

<資料>県統計調査課



(3) 鋳工業在庫指数

3月 = 110.1

(平成22年=100、鋳工業総合、季節調整済指数)

*前月比(季節調整済指数) : 7.5%増

*前年同月比(原指数) : 3.7%増

<概況>

3月の鋳工業在庫指数(総合)は110.1(季節調整済指数)で、前月比は7.5%増と2か月連続で前月を上回った。また、前年同月比(原指数)は3.7%増と4か月ぶりに前年水準を上回った。なお、在庫動向を在庫循環図で見ると、今月は「在庫調整局面(景気後退期)」に該当する。

業種別にみると、はん用・生産用・業務用機械(前年同月比12.2%減)が6か月連続で前年水準を下回ったものの、電気機械(同28.2%増)が15か月連続、輸送機械(同17.2%増)、パルプ・紙・紙加工品(同11.7%増)がいずれも2か月連続、化学(同1.6%増)、食料品・たばこ(同4.8%増)がいずれも4か月ぶりに前年水準を上回った。

<最近の動き>

	26年8月	9月	10月	11月	12月	27年1月	2月	3月
指数	110.1	106.6	103.7	102.9	101.3	100.4	102.4	110.1
前月比(%)	▲2.0	▲3.2	▲2.7	▲0.8	▲1.6	▲0.9	2.0	7.5
前年同月比(%)	5.0	1.3	1.0	0.9	▲1.0	▲6.6	▲1.2	3.7
(参考)全国前年同月比(%)	4.7	3.9	3.9	6.4	6.1	5.7	7.3	6.1

(注)平成22年=100、鋳工業総合、指数:季節調整済、前年同月比:原指数

<資料>県統計調査課、経済産業省

<県内業種別鋳工業在庫指数前年同月比の推移>

(単位:%)

	26年8月	9月	10月	11月	12月	27年1月	2月	3月
はん用・生産用・業務用機械工業	0.7	2.1	▲1.9	▲2.6	▲1.6	▲12.5	▲13.2	▲12.2
電気機械工業	35.4	33.5	35.5	29.6	34.6	21.2	22.5	28.2
輸送機械工業	▲5.2	▲18.5	▲6.8	▲3.2	▲27.4	▲22.6	35.1	17.2
化学工業	6.3	9.4	▲2.8	2.4	▲1.3	▲9.4	▲6.9	1.6
パルプ・紙・紙加工品工業	3.2	▲1.1	▲4.6	▲0.7	▲2.1	▲1.1	4.2	11.7
食料品・たばこ工業	9.2	9.0	8.7	2.4	▲2.6	▲8.4	▲1.4	4.8

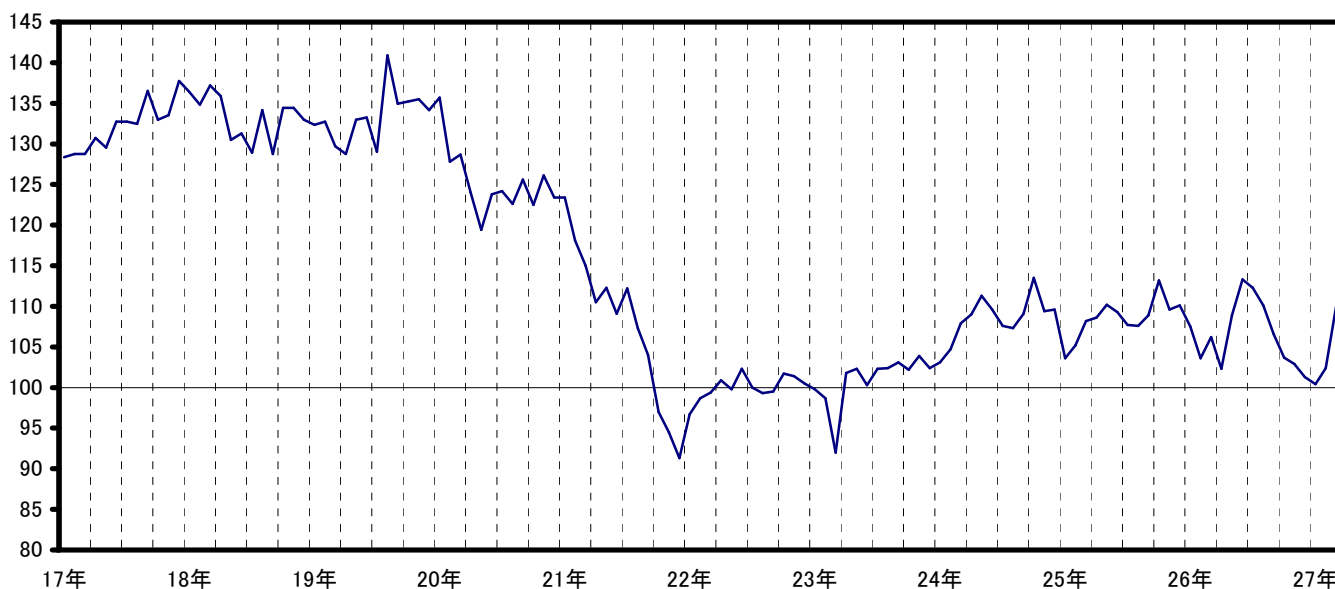
(注)平成22年=100、鋳工業総合、前年同月比:原指数

<資料>県統計調査課

<過去10年間の推移>

鋳工業在庫指数(総合、平成22年=100)

<資料>県統計調査課



雇 用 面

1 雇 用

(1) 有効求人倍率

4 月 = 1.13倍

*前月比（季節調整値）：0.01ポイント増

（季節調整値、学卒を除き、パートタイムを含む）

<概況>

4月の有効求人倍率（季節調整値、学卒を除き、パートタイムを含む）は1.13倍となり、前月を0.01ポイント上回った。また、4か月連続で全国値を下回った。

新規求人（学卒、パートタイムを除く）（前年同月比5.2%減）は22か月ぶりに前年実績を下回った。

これを産業別にみると、情報通信業（同34.2%増）、運輸業・郵便業（同0.3%増）で前年実績を上回ったものの、建設業（同4.4%減）、製造業（同0.3%減）、卸売業・小売業（同22.3%減）、医療・福祉（同8.4%減）、サービス業（他に分類されないもの）（同9.9%減）で前年実績を下回った。

<最近の動き>

（単位：倍）

	26年9月	10月	11月	12月	27年1月	2月	3月	4月
県	1.09	1.11	1.12	1.14	1.13	1.13	1.12	1.13
全 国	1.10	1.10	1.12	1.14	1.14	1.15	1.15	1.17

（注）季節調整値、学卒を除き、パートタイムを含む

<資料>厚生労働省

<産業別新規求人前年同月比の推移>

（単位：%）

	26年9月	10月	11月	12月	27年1月	2月	3月	4月
建 設 業	2.9	3.1	3.5	▲ 2.7	0.9	1.4	11.1	▲ 4.4
製 造 業	18.1	8.2	12.1	11.4	▲ 1.5	9.3	1.7	▲ 0.3
情 報 通 信 業	71.3	27.2	19.1	87.2	32.2	29.3	▲ 4.4	34.2
運 輸 業 ・ 郵 便 業	10.4	8.1	▲ 8.2	9.3	▲ 1.1	▲ 7.6	17.8	0.3
卸 売 業 ・ 小 売 業	36.5	1.7	49.1	26.7	▲ 37.1	5.4	6.8	▲ 22.3
医 療 ・ 福 祉	22.1	24.0	13.5	24.6	13.5	2.0	6.1	▲ 8.4
サービス業（他に分類されないもの）	38.4	▲ 1.1	▲ 3.5	8.2	34.1	12.5	19.1	▲ 9.9
合 計	19.0	11.5	7.5	13.6	4.7	0.6	6.5	▲ 5.2

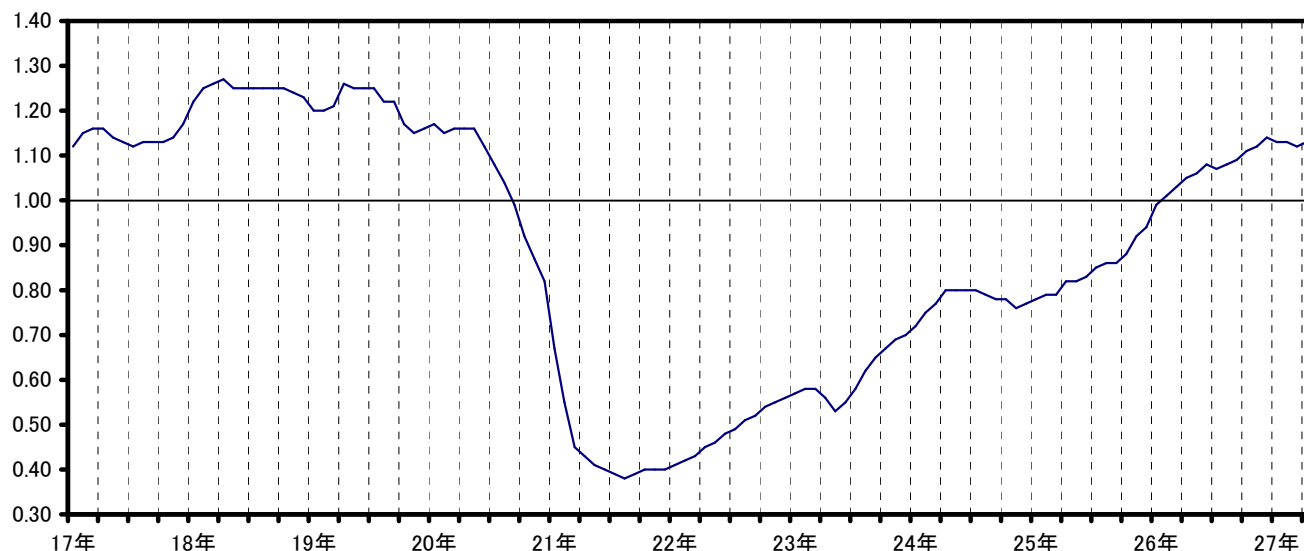
（注）学卒、パートタイムを除く

<資料>厚生労働省

<過去10年間の推移>

有効求人倍率（学卒を除き、パートタイムを含む）（倍）

<資料>厚生労働省



(2) 雇用保険受給者実人員

4 月 = 12,750人

*前 月 比: 1.4%減

*前年同月比: 6.4%減

<概 況>

4月の雇用保険受給者実人員は12,750人で、前月比は1.4%減と3か月連続で前月を下回った。また、前年同月比は6.4%減と21か月連続で前年実績を下回った。
 完全失業率(全国)は3.3%で、前月から0.1ポイント改善した。
 静岡県(平成27年1~3月)の完全失業率は2.5%で、前期(26年10~12月)と同水準だった。

<最近の動き>

	26年9月	10月	11月	12月	27年1月	2月	3月	4月
実 人 員 (人)	15,544	15,653	14,160	13,847	13,925	13,190	12,934	12,750
前 月 比 (%)	▲ 0.4	0.7	▲ 9.5	▲ 2.2	0.6	▲ 5.3	▲ 1.9	▲ 1.4
前 年 同 月 比 (%)	▲ 9.7	▲ 6.9	▲ 8.2	▲ 6.7	▲ 7.0	▲ 5.3	▲ 2.7	▲ 6.4
(参考)全国前年同月比(%)	▲ 8.8	▲ 10.4	▲ 11.2	▲ 8.2	▲ 9.5	▲ 7.5	▲ 5.3	▲ 6.5

<資料>厚生労働省

<参考 完全失業率(全国)の推移>

	26年9月	10月	11月	12月	27年1月	2月	3月	4月
完全失業率(全国)(%)	3.6	3.5	3.5	3.4	3.6	3.5	3.4	3.3

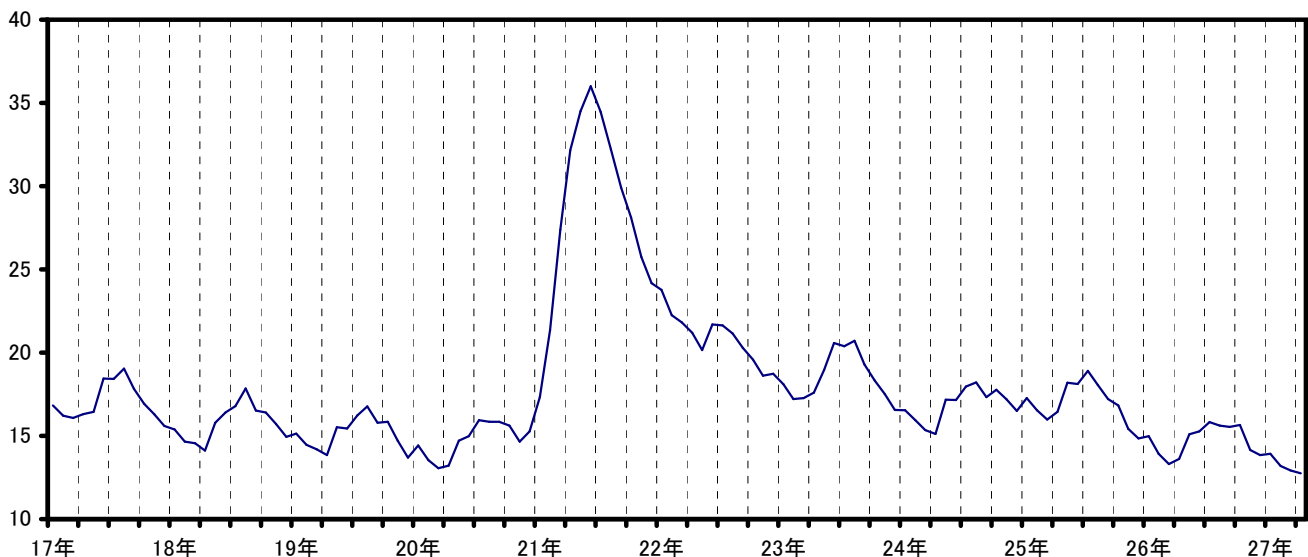
(注)季節調整値

<資料>総務省統計局

<過去10年間の推移>

雇用保険受給者実人員(千人)

<資料>厚生労働省



(3) 所定外労働時間指数

3 月 = 111.6

* 前月比(季節調整済指数): 1.5%減

(平成22年=100、事業所規模30人以上、調査産業計、季節調整済) * 前年同月比(原指数) : 1.7%減

<概況>

3月の所定外労働時間指数(事業所規模30人以上、調査産業計)は111.6(季節調整済指数)で、前月比1.5%減となった。また、前年同月比(原指数)は1.7%減となり、4か月ぶりに前年水準を下回った。

業種別にみると、建設業(前年同月比 38.6%増)が3か月連続、製造業(同 1.7%増)が8か月連続、運輸業・郵便業(同 4.5%増)が28か月連続で前年水準を上回ったものの、情報通信業(同 2.1%減)が2か月ぶり、卸売業・小売業(同 20.1%減)が2か月連続、医療・福祉(同 3.1%減)が8か月ぶり、その他サービス業(同 28.4%減)が36か月連続で前年水準を下回った。

<最近の動き>

	26年8月	9月	10月	11月	12月	27年1月	2月	3月
指数	106.8	107.9	107.3	107.4	110.7	111.9	113.3	111.6
前月比(%)	6.3	1.0	▲0.6	0.1	3.1	1.1	1.3	▲1.5
前年同月比(%)	4.7	6.2	2.9	▲0.7	2.9	3.7	3.4	▲1.7
(参考)全国前年同月比(%)	0.6	1.4	0.6	0.5	1.3	0.6	0.5	▲1.9

*平成22年=100、事業所規模30人以上、調査産業計、指数:季節調整済指数、前年同月比:原指数

<資料>県統計調査課

<県内業種別所定外労働時間指数前年同月比の推移>

(単位:%)

	26年8月	9月	10月	11月	12月	27年1月	2月	3月
建設業	8.6	▲11.1	▲18.9	2.3	▲1.0	10.4	15.0	38.6
製造業	7.2	2.2	0.4	1.4	3.2	5.0	7.2	1.7
情報通信業	▲5.4	▲7.4	4.4	▲41.6	▲27.4	▲36.5	20.2	▲2.1
運輸業・郵便業	9.8	15.7	17.2	15.2	3.4	2.0	2.2	4.5
卸売業・小売業	6.9	8.6	5.6	1.4	▲3.7	8.0	▲1.6	▲20.1
医療・福祉	0.8	4.2	9.6	2.4	11.0	1.8	18.4	▲3.1
その他のサービス業	▲13.8	▲17.6	▲18.9	▲27.8	▲13.8	▲15.7	▲23.7	▲28.4
調査産業計	4.7	6.2	2.9	▲0.7	2.9	3.7	3.4	▲1.7

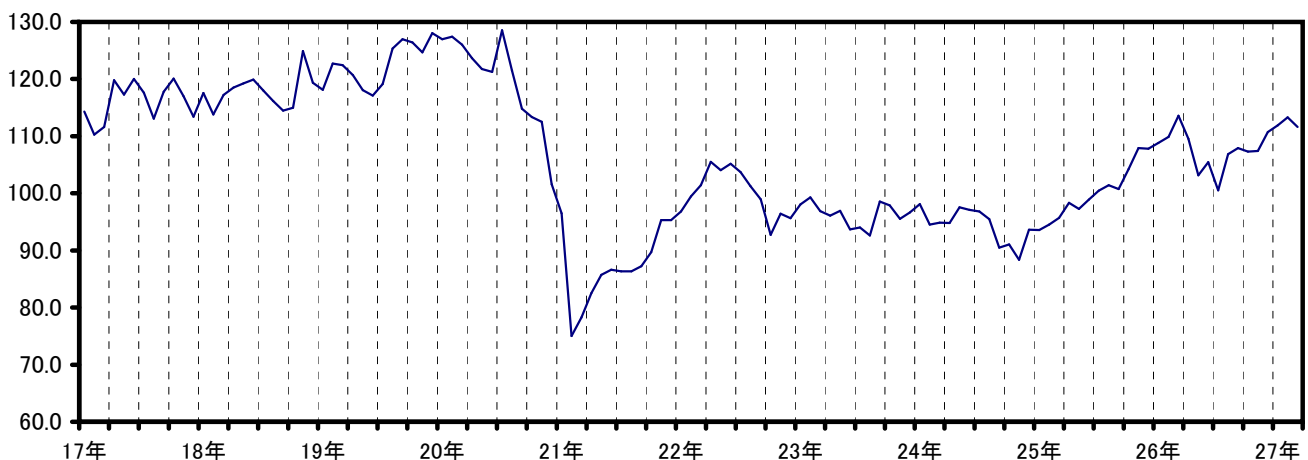
*平成22年=100、事業所規模30人以上、前年同月比:原指数

<資料>県統計調査課

<過去10年間の推移>

所定外労働時間指数(事業所規模30人以上、平成22年=100)

<資料>県統計調査課



そ の 他

1 物 価

(1) 国内企業物価指数

5 月 = 103.9

*前 月 比: 0.3%上昇

*前年同月比: 2.1%下落

(平成22年=100)

<概 況>

5月の国内企業物価指数は103.9となり、前月比は0.3%の上昇となった。また、前年同月比は2.1%の下落となった。

<最近の動き>

	26年10月	11月	12月	27年1月	2月	3月	4月	5月
国内企業物価指数	105.5	105.2	104.7	103.3	103.2	103.5	103.6	103.9
前 月 比 (%)	▲ 0.8	▲ 0.3	▲ 0.5	▲ 1.3	▲ 0.1	0.3	0.1	0.3
前年同月比 (%)	2.9	2.6	1.8	0.3	0.4	0.7	▲ 2.1	▲ 2.1

*平成22年=100

<資料>日本銀行

(2) 消費者物価指数(総合)

5 月 = 104.0

*前 月 比: 0.3%上昇

*前年同月比: 0.5%上昇

(平成22年=100)

<概 況>

5月の消費者物価指数(総合)は104.0となり、前月比は0.3%の上昇となった。また、前年同月比は0.5%の上昇となった。

<最近の動き>

	26年10月	11月	12月	27年1月	2月	3月	4月	5月
消費者物価指数	103.5	103.0	102.9	102.9	102.8	103.2	103.7	104.0
前 月 比 (%)	▲ 0.4	▲ 0.5	▲ 0.1	0.0	▲ 0.1	0.4	0.5	0.3
前年同月比 (%)	3.0	2.5	2.2	2.3	2.2	2.4	0.7	0.5

*平成22年=100

<資料>県統計調査課

2 金 融

(1) 県内金融機関貸出残高

4 月 = 132,750億円

*前 月 比: 1.4%減

*前年同月比: 2.8%増

(銀行、信用金庫)

<概 況>

4月末の県内の銀行と信用金庫の貸出残高は132,750億円で、前月比1.4%減、前年同月比は2.8%増となった。

	26年9月	10月	11月	12月	27年1月	2月	3月	4月
貸出残高(億円)	132,656	131,113	131,751	133,572	132,402	132,274	134,686	132,750
前 月 比 (%)	1.6	▲ 1.2	0.5	1.4	▲ 0.9	▲ 0.1	1.8	▲ 1.4
前年同月比 (%)	2.9	3.1	3.2	3.2	3.4	3.2	2.6	2.8

<資料>日本銀行静岡支店

(2) 貸出約定金利

4 月 = 2.137%

*前 月 差: 0.013ポイント増

*前年同月差: 0.039ポイント増

(県内地銀4行総平均)

<概 況>

4月の県内地銀4行総平均の貸出約定金利(総合)は2.137%で、前月から0.013ポイントのプラスとなった。なお、前年同月差は0.039ポイントのプラスとなった。

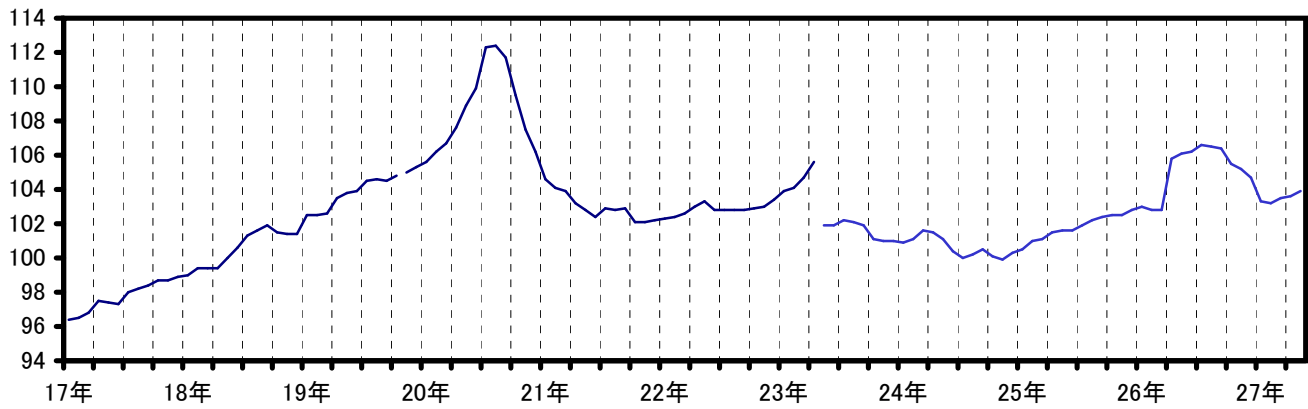
	26年9月	10月	11月	12月	27年1月	2月	3月	4月
貸出約定金利(%)	2.109	2.124	2.126	2.118	2.131	2.142	2.124	2.137
前月差(ポイント)	▲ 0.003	0.015	0.002	▲ 0.008	0.013	0.011	▲ 0.018	0.013
前年同月差(ポイント)	0.043	0.042	0.044	0.048	0.021	0.036	0.044	0.039

<資料>日本銀行静岡支店

<過去10年間の推移>

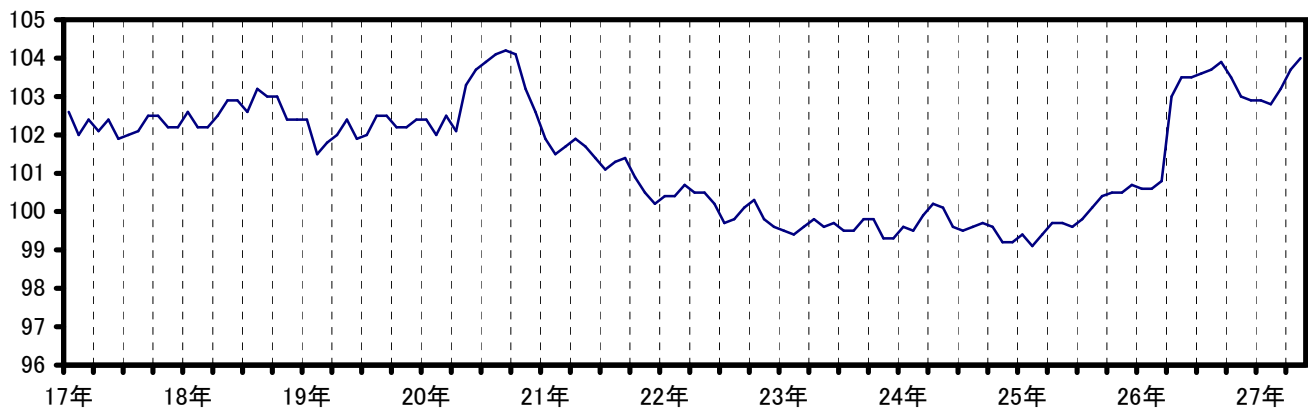
国内企業物価指数(平成22年=100)

<資料>日本銀行



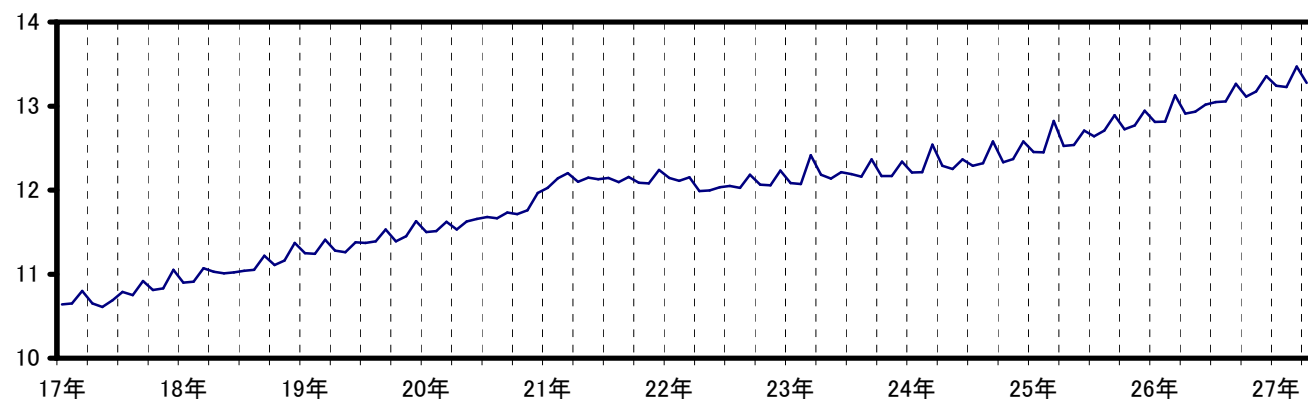
消費者物価指数(平成22年=100)

<資料>県統計調査課



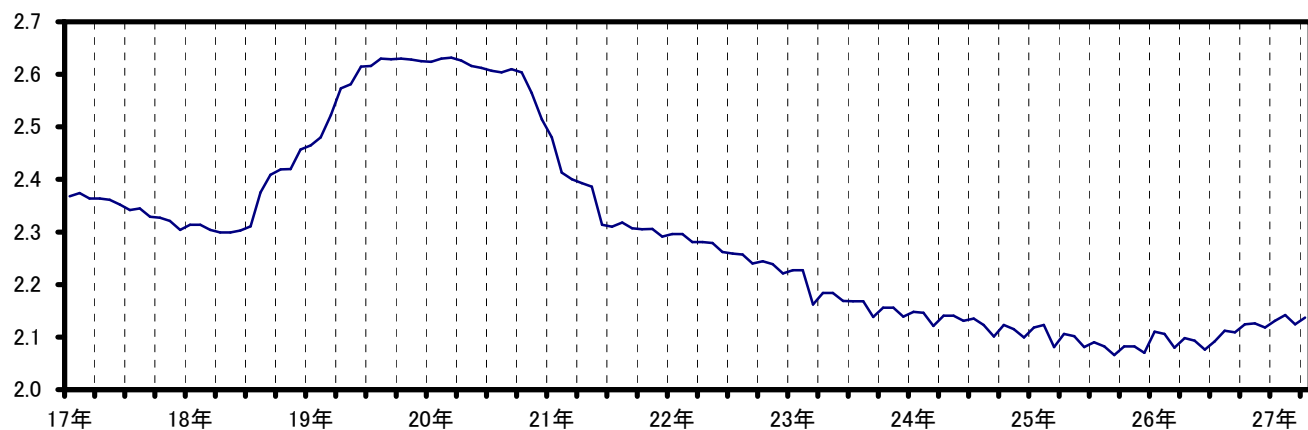
県内金融機関貸出残高(兆円)

<資料>日本銀行静岡支店



県内地銀平均貸出約定金利(%)

<資料>日本銀行静岡支店



(3) 信用保証協会保証金額**4 月 = 16,893百万円**

*前年同月比： 1.3%減

<概況>

4月の保証承諾は、金額が16,893百万円（前年同月比 1.3%減）と30か月連続で前年実績を下回り、件数は1,857件（同 4.1%減）と2か月ぶりに前年実績を下回った。

<最近の動き>

	26年9月	10月	11月	12月	27年1月	2月	3月	4月
保証金額（百万円）	26,540	20,926	21,189	30,756	18,715	21,165	30,874	16,893
前年同月比（%）	▲ 12.7	▲ 11.9	▲ 18.6	▲ 8.7	▲ 2.7	▲ 2.4	▲ 7.6	▲ 1.3
保証件数（件）	2,827	2,206	2,165	3,173	1,941	2,340	3,215	1,857
前年同月比（%）	▲ 4.8	▲ 13.5	▲ 19.5	▲ 6.0	▲ 8.8	▲ 3.0	0.4	▲ 4.1

<資料>県信用保証協会

(4) 円相場**5 月 = 120.74円/ドル**

*前月差： 1.19円安

(東京・銀行間直物中心・平均)

*前年同月差： 18.95円安

<概況>

5月の東京外国為替市場での対ドル平均円相場（銀行間直物）は120.74円で、前月と比べて1.19円の円安となり、2か月ぶりに円安となった。

<最近の動き>

	26年10月	11月	12月	27年1月	2月	3月	4月	5月
平均相場（円）	108.06	116.22	119.40	118.24	118.57	120.39	119.55	120.74
前月差（円）	0.97	8.16	3.18	▲ 1.16	0.33	1.82	▲ 0.84	1.19
前年同月差（円）	10.21	16.19	15.94	14.30	16.44	18.12	16.99	18.95

▲…円高

(注)東京外国為替相場・銀行間直物中心相場・平均

3 企業経営**企業倒産件数****5 月 = 21件**

*前年同月比： 10.5%増

<概況>

5月の負債総額 1,000万円以上の企業倒産件数は21件で前年実績を上回り、負債総額は2,878百万円で前年実績を下回った。

原因別にみると、既往のシワ寄せ、販売不振を原因とするいわゆる「不況型倒産」が13件と全体の61.9%を占め、210か月連続して50%以上となっている。

<最近の動き>

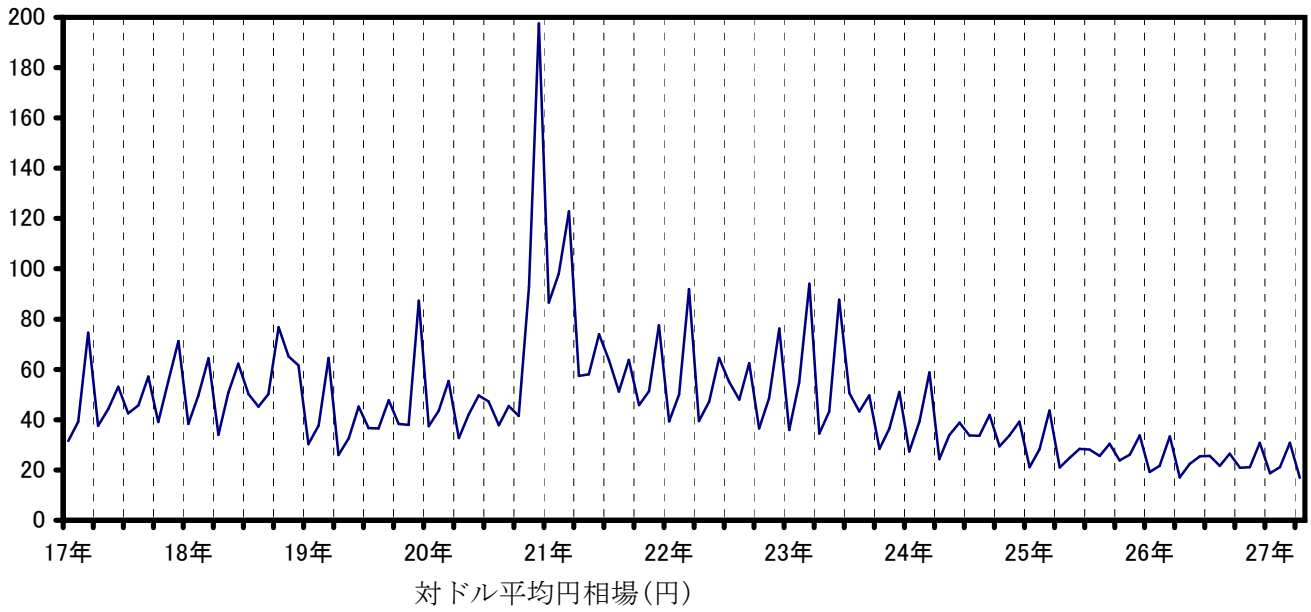
	26年10月	11月	12月	27年1月	2月	3月	4月	5月
倒産件数（件）	30	24	22	25	18	23	25	21
前年同月比（%）	▲ 11.7	▲ 29.4	▲ 26.6	8.6	▲ 30.7	▲ 14.8	8.6	10.5
うち不況型倒産件数(件)	20	24	17	20	13	21	20	13
負債総額（百万円）	3,183	2,935	3,941	6,396	1,965	2,983	4,007	2,878
前年同月比（%）	▲ 61.3	▲ 29.9	▲ 34.1	92.7	▲ 52.2	▲ 21.0	43.5	▲ 6.7

<資料>(株)東京商工リサーチ静岡支社

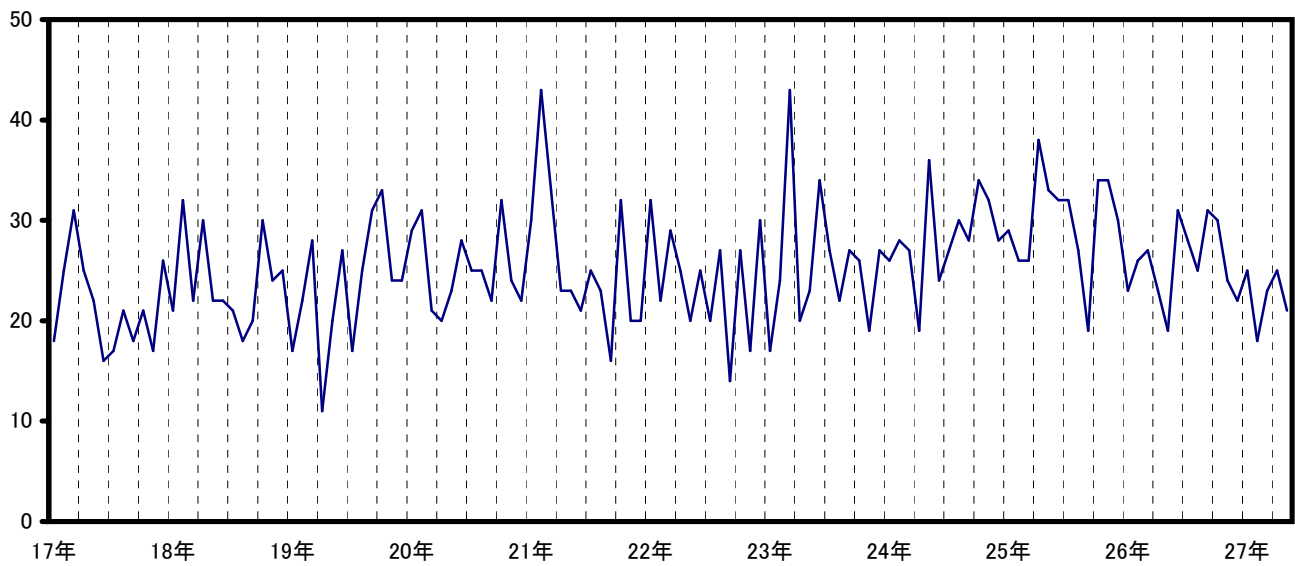
<過去10年間の推移>

信用保証協会保証承諾金額(十億円)

<資料>県信用保証協会



<資料>(株)東京商工リサーチ静岡支社



Ⅲ 平成27年4月を中心とした静岡県主要産業の動向

業 種	産 業 動 向
二 輪 車 二輪車部品	<p>4月の国内二輪車生産台数は、35,912台（前年同月比12.0%減）で、6か月連続で前年実績を下回った。車種別では、原付第二種（51～125cc以下）のみが3,085台（同 8.2%増）と前年実績を上回った。</p> <p>出荷台数では、国内は34,883台（同 7.3%増）で、5か月ぶりに前年実績を上回った。特に、原付第二種が7,908台（同24.4%増）、軽二輪車（126～250cc以下）が4,627台（同25.9%増）と好調であった。</p> <p>一方、輸出向けは31,826台（同14.0%減）で、5か月連続で前年実績を下回ったが、アジア向けは2,399台（同12.7%増）、アフリカ向けは2,542台（同24.0%増）と好調であった。また、車種別では、原付第一種（50cc以下）は1,216台（同71.0%増）、軽二輪車は4,196台（同18.7%増）と好調であった。</p> <p style="text-align: right;">＜資料＞日本自動車工業会</p>
自 動 車 自動車部品	<p>4月の自動車国内生産台数は713,155台（前年同月比 7.5%減）となり、10か月連続で前年実績を下回った。また、輸出は379,907台（同 1.1%増）となり、2か月連続で前年実績を上回った。</p> <p>国内生産は、トラックが3か月連続で前年同月比プラスとなったものの、乗用車が10か月連続で前年同月比マイナスとなっていることから、全体でも10か月連続で前年同月比マイナスとなっている。</p> <p>輸出は、欧州向けが8か月連続で前年同月比マイナスとなったものの、北米向けが2か月連続で前年同月比プラスとなったことから、全体では2か月連続で前年同月比プラスとなった。</p> <p style="text-align: right;">＜資料＞日本自動車工業会</p>
電気機械	<p>4月の冷蔵庫の国内出荷額は257億4,100万円（前年同月比21.4%減）、また、国内出荷台数は251千台（同17.0%減）で、ともに7か月連続で前年実績を下回った。</p> <p>4月のエアコンの国内出荷台数は、家庭向けは399千台（同14.8%減）で、12か月連続で前年実績を下回った。また、業務用も48千台（同 8.1%減）で、5か月ぶりに前年実績を下回った。</p> <p>3月の携帯電話と公衆用PHSを合わせた移動電話の国内出荷台数は、2,033千台（同 4.6%増）と3か月連続で前年実績を上回った。うち、スマートフォンは、冬春モデルの販売が好調で、924千台（同38.5%増）となった。単月のスマートフォン比率は45.5%であった。</p> <p style="text-align: right;">＜資料＞日本電機工業会、日本冷凍空調工業会、J E I T A / C I A J</p>
生産用 機械	<p>4月の工作機械の受注総額は、1,346億2,100万円（前年同月比10.5%増）と、19か月連続で前年実績を上回った。</p> <p>内訳をみると、外需は861億5,600万円（同 1.0%減）と前年実績を下回ったが、内需は484億6,500万円（同39.0%増）と前年実績を上回った。外需は前年実績を僅かに下回ったものの、アジア向けは486億5,700万円（同 7.4%増）と好調であり、また、内需は特に、自動車業界向けが212億1,800万円（同78.4%増）と好調であった。</p> <p>一方、県内中小企業からは、盛り上がり欠ける状態が続いているとの声も聞かれた。</p> <p style="text-align: right;">＜資料＞日本工作機械工業会、静岡県中小企業団体中央会</p>

業 種	産 業 動 向
楽 器	<p>4月の県内楽器メーカーの販売金額は、57億9,700万円（前年同月比36.7%減）で、7か月連続で前年実績を下回った。内訳は輸出向けが30億1,000万円（同9.2%減）で、国内向けが27億8,700万円（同52.3%減）であった。</p> <p>ピアノ生産台数は3,130台（同4.0%減）で、前月のプラスからマイナスに転じ、前年実績を下回った。機種別では、アップライトピアノが1,965台（同6.5%減）、グランドピアノが1,165台（同0.5%増）であった。また、販売台数は、輸出向けが2,021台（同5.4%増）、国内向けが1,240台（同48.7%減）であった。</p> <p style="text-align: right;">＜資料＞静岡県楽器製造協会</p>
紙	<p>4月の紙・板紙の国内出荷高は、2,118千トン（前年同月比0.1%増）で、前年3月以来13か月ぶりの増加。内訳は、紙は1,168千トン（同1.0%減）で、13か月連続で前年実績を下回り、板紙は950千トン（同1.6%増）で、6か月ぶりに前年実績を上回った。</p> <p>品種別では、主力の印刷・情報用紙が、646千トン（同1.8%減）と13か月連続で前年実績を下回った。ティッシュペーパー、トイレットペーパー等の家庭紙は、150千トン（同5.3%増）と、4か月ぶりに前年実績を上回った。</p> <p style="text-align: right;">＜資料＞日本製紙連合会</p>
缶詰・飲料	<p>4月の県内生産量は、食缶類が国内向け922千箱（前年同月比3.0%減）と、2か月連続で前年実績を下回った。</p> <p>分類別でみると、水産缶（国内向け）は709千箱（同1.9%増）と3か月連続で前年実績を上回った。うち主力であるツナ缶は533千箱（同1.8%減）と、前月のプラスからマイナスに転じ前年実績を下回った。</p> <p>農畜産缶（国内向け）は213千箱（同16.3%減）と、2か月連続で前年実績を下回った。</p> <p>飲料缶類は、国内向けが7,891千箱（同9.6%減）で、10か月連続で前年実績を下回った。</p> <p style="text-align: right;">＜資料＞静岡缶詰協会</p>
織 維	<p>4月の広幅織物の県内生産は、1,519千㎡（前年同月比1.7%減）であった。このうち、綿布が主体の一般広幅織物の生産は、1,446千㎡（同1.5%減）であり、別珍・コールテンの生産は、73千㎡（同5.7%減）であった。</p> <p>小幅織物の県内生産は、39千㎡（同10.4%増）であった。</p> <p>産地では、引き続き、生産量が減少傾向にある。このため、県内外そして海外へと各種展示会への出展による新規需要・販路開拓を図っている。4月は、都内で開催された「高機能素材ワールド」に出展した。</p> <p style="text-align: right;">＜資料＞遠州織物工業協同組合、天龍社織物工業協同組合、浜松織物協同組合</p>

業 種	産 業 動 向
家 具	<p>4月の全国百貨店での家具販売額は、58億1,200万円（前年同月比11.7%増）で、また、大型量販店での家具・インテリアの販売額は、577億3,200万円（同8.4%増）であった。</p> <p>前年が消費税率引上げ直後の買控えによる大幅減の反動もあり、前年と比べ売上を伸ばした。</p> <p>こうした中、県内業界では、各種展示会を開催するなど、販路拡大に取り組むとともに、6月9日から開催する、国内最大級の家具見本市「シズオカ[KAGU]メッセ2015」に向けて準備を進めている。</p> <p>＜資料＞日本百貨店協会、日本チェーンストア協会、地域産業課</p>
小 売 業	<p>4月の県内百貨店は、前年が消費税増税後の買い控えによる大幅減だったため、前年同月比で大きく売上げを伸ばした。一方、入店客数は天候不順の影響もあり前年割れとなった。</p> <p>また、百貨店からは、訪日外国人による、化粧品や高額品の売上げが増加しているが、東京とは異なり、まだ、売上げに寄与するには至っていないという声が聞かれた。</p> <p>4月の食品スーパーへの聞き取りでは、前年は消費税増税の影響が大きくあったため、売上高は前年同月比でプラスとなった。中部のある店舗からは、宅配事業の売上げや、高品質高価格帯のPB（プライベートブランド）商品の販促が好調となったという声が聞かれた。</p> <p>4月の県内の大規模小売店舗（店舗面積1,000㎡超）の新設届出は、西部で1店舗であり、前年同月の3店舗（東部2店舗、西部1店舗）を下回った。なお、全国では47店舗の出店があった。</p> <p>（資料）静岡県百貨店協会、静岡県地域産業課</p>
観 光	<p>4月の県内主要10観光施設の合計入込客数は約44万人で、前年同月比31.9%の減となった。4月上旬に天候の崩れる日が続いたことなどにより、県内全域で入込客数の減少が見られた。</p> <p>主要有料道路（5路線）合計の通行車両も、約65万台と前年同月比3.1%の減となった。</p> <p>＜資料＞静岡県観光政策課</p>

＝ IVデータからみた県内主要産業 ＝

<二輪車>

	26年8月	9月	10月	11月	12月	27年1月	2月	3月	4月
完成車生産台数(台)	16,426	20,320	25,301	22,094	21,785	19,802	21,173	21,577	15,496
前年同月比(%)	12.0	12.3	29.0	9.6	18.2	12.4	2.7	6.4	17.1
KD輸出額(百万円)	956	1,265	1,018	1,151	1,194	1,127	1,010	1,030	1,020
前年同月比(%)	▲6.4	14.3	▲10.5	▲6.4	18.2	8.0	4.7	17.5	▲16.7

<楽器>

	26年8月	9月	10月	11月	12月	27年1月	2月	3月	4月
生産総額(百万円)	3,332	3,852	3,846	3,429	3,467	3,384	3,419	3,662	3,946
前年同月比(%)	9.5	15.6	▲2.2	▲12.1	▲5.0	▲4.5	▲3.0	17.1	▲12.5

<缶詰>

	26年8月	9月	10月	11月	12月	27年1月	2月	3月	4月
食缶生産高(千ケース)	875	873	903	859	755	790	889	930	925
前年同月比(%)	4.9	▲7.6	▲0.9	▲7.1	▲6.1	▲3.8	15.5	▲4.8	▲3.7
うち水産缶詰(%)	8.9	▲6.8	5.8	▲2.2	▲5.9	0.9	12.8	2.7	1.9
農畜産缶詰(%)	▲5.2	▲10.3	▲18.9	▲20.9	▲6.6	▲15.7	23.1	▲24.1	▲19.4
飲料缶生産高(千ケース)	8,195	6,170	6,252	6,943	6,593	4,946	5,202	6,976	7,891
前年同月比(%)	▲11.9	▲27.5	▲22.1	▲15.5	▲10.2	▲14.3	▲26.9	▲18.6	▲9.6

<繊維>

	26年8月	9月	10月	11月	12月	27年1月	2月	3月	4月
広幅織物(千㎡)	1,094	1,299	1,430	1,580	1,535	1,443	1,508	1,519	1,519
前年同月比(%)	▲4.6	▲3.6	▲5.9	▲4.7	▲5.4	▲11.6	▲5.3	▲3.7	▲1.7
小幅織物(千㎡)	39	42	38	36	37	36	38	38	39
前年同月比(%)	▲17.6	▲11.7	▲19.4	▲23.5	▲21.1	▲3.7	6.3	▲1.7	10.4

<観光>

	26年8月	9月	10月	11月	12月	27年1月	2月	3月	4月
観光施設(10施設)入込 (千人)	565	433	357	401	218	252	244	470	442
前年同月比(%)	1.9	▲1.0	▲5.2	▲2.4	▲16.3	▲11.5	30.4	27.5	▲31.9
有料道路(5路線)通行量 (千台)	841	679	649	696	674	623	606	762	650
前年同月比(%)	7.8	18.5	17.7	16.5	18.0	15.2	17.3	0.0	▲3.1

本書で掲載している県内の主要統計資料の時系列（過去10年間）のデータは静岡県公式ホームページの「統計センターしずおか」で公表しています。

静岡県公式ホームページ⇒統計・調査⇒統計センターしずおか⇒県内主要統計指標
<http://toukei.pref.shizuoka.jp/>

需要面	生産面	雇用面	その他
・百貨店販売額	・産業用大口電力消費量	・有効求人倍率	・国内企業物価指数
・大型小売店販売額	・鉱工業生産指数	・雇用保険受給者実人員	・消費者物価指数
・自動車新規登録台数	・鉱工業在庫指数	・完全失業率	・県内金融機関貸出残高
・新設住宅着工戸数		・所定外労働時間指数	・信用保証協会保証金額
・清水税関支所管内輸出額			・企業倒産件数
・清水税関支所管内輸入額			

提供いただいている資料

資料名	提供元	ホームページアドレス
公共工事請負金額	東日本建設業保証（株）	http://www.ejcs.co.jp/region/index.html
設備投資	日本銀行静岡支店	http://www3.boj.or.jp/shizuoka/kouhyou/hyousi_f.html
貸出約定金利		
国内企業物価指数	日本銀行	http://www.boj.or.jp/type/statat/boj_stat/index.htm
円相場		

参考となる全国の資料等

資料名	提供元	ホームページアドレス
鉱工業生産指数	経済産業省	http://www.meti.go.jp/statistics/index.html
大型小売店販売額		
輸出入	財務省	http://www.mof.go.jp/siryou.htm
国際収支		
機械受注	内閣府	http://www.esri.cao.go.jp/jp/stat/juchu/juchu.html
消費者物価	総務省統計局	http://www.stat.go.jp/
家計調査		
完全失業率	厚生労働省	http://www.dbtk.mhlw.go.jp/toukei/kouhyo/index.html
有効求人倍率		

静岡県月例経済報告
平成27年6月号 通巻470号

発行 静岡県経済産業部
平成27年6月

編集 経済産業部管理局政策監
〒420-8601
静岡市葵区追手町9-6
TEL 054-221-2635
FAX 054-221-3217
E-mail keisan-seisaku@pref.shizuoka.lg.jp
URL <http://www.pref.shizuoka.jp/sangyou/>